

—岡山県—

北房小学校・北房こども園について

1. はじめに

真庭市は、岡山県の北部に位置し、南北約50kmの広がりを見せる、面積が岡山県下最大の市であり、豊富な森林資源の恵みにより、ヒノキの産地として発展し、林業・木材産業の盛んな木材の集散地域である。また、全国でも有数のバイオマス産地として知られている。本事業の建設地の北房地域は市の南部に位置し、この地でイメージしたのは地域の子供たちが集う大きな家であった。

2. 事業の概要

本事業は、北房地域の4小学校、3幼稚園、2保育園を再編した小学校と認定こども園を同一敷地内（旧高等学校敷地）にそれぞれ建築する整備事業である。



全体鳥瞰図

真庭市では、すでに地域産材やCLT板（ひき板を繊維方向に直交するように積層接着したパネル）を用いた建築への取り組みを積極的に行っており、本計画においても、真庭産材をふんだんに活用した「木に包まれたさまざまな交流の場をもつ、地域につながる学び舎」を目指した。また、同一敷地内に旧格技場を改修した放課後児童クラブも併せて整備している。

3. 事業の成果

小学校・こども園・放課後児童クラブの建物は中央の「交流広場」を取り囲むように配置し、交流や連携が自然と生れる構成とした。また、敷地の高低差を利用した配置は、こども園から小学校へとつながる1歳から12歳までの「育ちと学びの連続性」を意識した。



北房小学校メディアセンター

小学校は大断面集成材によるラーメン架構とし、教室間の耐力壁や体育館の屋根にCLT板を部分的に活用し、こども園ではCLTパネル工法と在来床組工法を組み合わせたハイブリット構造とし、床・壁・屋根にCLTを効果的に活用した。また、美観・手触り・耐磨耗性に配慮して、外層にヒノキを利用した新しいCLTパネルを開発し、木材利用の促進につなげている。木造化だけでなく、内装・建具・家具でも積極的に真庭産材を採用することで地元への思いや誇りを育てる生きた教材となり、こどもたちや地域の人々に愛される学び舎として成長することを望んだ。



北房こども園なかよしホール

4. おわりに

本事業は、真庭市でのこれまでのCLT建築物にない新たな取り組みを行っており、特に都市部における高層建築物などの構造材として、木材利用が拡大し、さまざまな機能や用途の建築物におけるCLT板の活用のモデルとして大きな期待をしている。

（岡山県真庭市建設部 都市住宅課 建築営繕室 川端 次男）